

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ(1階)		
所在地	静岡県焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 25日	評価結果市町村受理日	令和 3年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 3年 2月 9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたがそう願うなら、私たちは絶対にあきらめない」法人理念のもと他職種連携に力を入れています。日々の生活の中で個別のプログラムに取り組み出来ない事を無理に続けるのではなく出来る事が継続出来るように理学療法士に助言・指導をいただきながら実行しています。毎月の訪問診療時には薬剤師に同席してもらいその方にあった飲み方などの指導もいただいています。また、利用者様が混乱することなく安心して安全に生活出来るようにケアの統一にむけ管理職が研修に参加し職員教育を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前に小学校があり、子どもの声が聞こえてくる住宅地に位置している。事業所も住宅のような建て方で、周りの家と違和感がない。コロナ禍で地域の行事や外出等を自粛しているが、文化祭への参加や運営推進会議も1回開催している。看護師や理学療法士を職員配置し、医療関係者との連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。重度化や終末期に向けた支援や看取り介護も家族の意向を伺い、最後まで安心した生活が送れるよう支援している。外国人技能実習生を2名受け入れており、日本の介護技術を母国に持ち帰ることを目的にしている。職員は一緒に介護することで支援の方法を振り返ることが出来ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「あきらめない」をもとに、他職種連携に力を入れています。訪問診療時には提携薬局の薬剤師にも入っていただきその方にあった薬が処方されているか毎月指導をいただいています。	法人理念のもと利用者が「歩きたい」「帰りたい」と願えば、諦めずにその思いに沿い支援をしていく。職員は個々に『利用者を第1に』『成長する』などのスローガンをづくり意識している。月2回の職員会議でも理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月に地域の文化祭には利用者様と数名と参加しました。そのほかは感染症対策のため職員のみでの参加としています。施設行事も対策のため、利用者様と職員のみで行っています。	以前は地域の祭りや運動会に参加していたが、コロナ禍により自粛している。文化祭には参加をして利用者の作品を展示し見学してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して地域のかたに興味を持って頂けるよう計画していたがコロナにより1度のみでの開催となってしまった。今後、職員の理解を深め地域の方へ発信していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症蔓延により1月に1回のみの開催となっています。延期、中止の時には行事報告を書面で送付しています。	運営推進会議開催時の参加者は、地域包括ケア推進課、民生委員、家族等である。コロナ禍による開催中止の際には、事業所の状況、活動報告や事故報告を書面で関係者に送付している。地域の方々とは来年度の行事予定などの情報を連絡をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などその都度相談にのっていただいています。	介護保険制度や福祉用具等の相談をしている。事業所の事故報告をしたり、介護認定の更新時などに情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックによる精神的苦痛をゼロにするため職員全員で話し合いを行い実施しています。身体的拘束についても自己点検チェックを行っています。	管理者やリーダー、職員数人で身体拘束委員会を開き、3か月毎に職員全員でスピーチロックの研修を実施している。居室にセンサーを設置している人が2名いるが、外すタイミングが難しく検討している。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員で定期的話し合いを行い3ヶ月に1回職員研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援や後見制度について研修に参加する機会が持てた。今後、職員に研修会を開けるように検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際に利用契約書・重要事項説明書の読み上げ説明し不明点についても納得していただけるまで説明し同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症により家族会の開催は出来ていません。ご家族面会時にはご様子をお伝えするとともにご家族のご意向等を伺っています。ご利用者様からは日々の生活の中でお話を伺うことが出来て居ます。	コロナ禍により家族会は開催していない。面会時に外国人技能実習生に関する質問があり、運営推進会議の報告で状況を伝え対応している。以前は、家族会で事業所の料金値上げなどの運営に関する意見がでている。	面会時に個々の意向を伺っているが、家族会もコロナ禍により開催されていない。幅広く運営に関する利用者、家族等意見の反映するために、例えば全ての家族にアンケートなど実施し、反映に繋げることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度の面接を行い体調面、業務、人間関係について話を聞いています。また、日々の業務の中で声をかけ変化に早期に気づけるように心がけ管理職で共有しています。	9月と3月に管理者が職員個々に面接を行い、異動や休暇などの件で要望や意見を聞いている。月2回の職員会議で職員とコミュニケーションを図り、具体的に意見を聞き検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアの統一にむけ管理職がアセッサーの勉強をしている。業務内容や記録用紙の見直しを職員と一緒にいき不都合があればその都度変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に出ることが難しく実施出来ていません。管理職がアセッサー研修に参加しケアの統一に向け勉強中し業務の中でその都度職員へ指導しています。今後、全体での研修を行う予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症により他事業所との交流ができていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者さま・ご家族様のご意見ご要望をしっかりと聞き、無理強いはせずゆっくりとホームの生活に慣れていただける様に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当時はご家族様・利用者様の不安も大きいのでしっかりと話を聞きしています。コロナにより面会制限があり直接会うことは難しいが電話にて話をいただいています。職員からも利用者様のご様子をご家族にお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせをいただいた時に同法人の小規模複合型・デイサービスについてもご案内させていただきその方に合ったサービスが提供出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動とうを職員とご利用者様で協力して行っています。利用者様にとっても日課となり「これやってもいい」と声をかけて下さり率先してお手伝いしてくれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	爪切り・散髪・居室の片付け等を面会時に行つて下さるご家族もいらっしゃいますが、今は感染症対策のため長時間の面会をご遠慮いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症蔓延により外出は自粛をお願いしています。関係性を忘れないように写真や絵手紙等を持参して下さるご家族さまもいらっしゃいます。	入居前から関わりのある宗教関係者との付き合いや家族との墓参りをしていたが、現在は外出を控えている。知人との年賀状のやり取りや家族からは孫の写真が同封され、継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活パターンの違いにより衝突していただくこともあります。席順に配慮したり職員が間に入るようにしています。利用者様同士でお互いを気遣い助け合っている姿も見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあと、近くに来たと寄って頂いていたが職員の入れ替わりなどで【知らない職員さんばかりになってしまった】と足が向かなくなってしまうている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を尊重しながら、その方にあったサービスが提供出来るように全職員でアセスメントを行い情報を収集し共有している。ご家族様からも生活層等の情報を頂けるように声かけをしています。	ゆったりしたおやつの時間など日々の関わりの中で、どこに行きたいか声かけをして把握している。利用者の生活歴や家族関係など、家族から情報を得てどのように暮らしたいか気持ちに寄り添い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より今までの生活歴の聞き取りを行っています。ご本人様からも日々の生活の中で話を伺う機会がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を個人記録に細かく記載し申し送りの中で全職員が共有出来るようにしている。ユニット会議や全体会議でも情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当者がついており、毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1回アセスメントをしています。毎月のユニット会議では3名の利用者様について時間をかけ協議しています。	担当者がモニタリングを行い問題点と課題を出して、職員会議で利用者について共有を図っている。介護計画の見直し、さらに介護計画作成を行い家族に説明して意見を頂いている。また遠方の家族には計画を送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を変更し事細かに記載できるようにしました。その都度関わった職員が記入することで伝達間違いや聞いた聞いてない等のトラブル減少する事を目的としています。R3.1月変更により様式になれておらず記入漏れがあるため課題が残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化により居室や食事席の変更をフローア職員と話し合いをし安全に生活していただける様にしている。必要があれば理学療法士にも助言をもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や地域の祭りはコロナにより中止となった。文化祭については開催されたため数名の方と参加しました。作品は利用者様と職員で協力して完成させ提出する事が出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	18名の利用者様がホームの協力医に訪問診療を受けています。毎月ご様子をまとめた用紙を提出し協力医へ情報提供している。体調不良時にはすぐに相談し適切な対応が来ています。	協力医の定期往診が月に1~2回、歯科医の定期往診は週1回である。眼科・整形外科・皮膚科・脳外科の受診は家族が同行している。月2回理学療法士の訪問がある。看護師が協力医と連携し、24時間対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・介護職員で情報を共有し意見交換を行っています。担当看護師が週に3回は出勤しているため医療面の指示や助言をもらっている。看取りケアについても看護師とよく話し合い実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には地域連携室に状態確認の連絡をしています。退院時には退院カンファレンスに参加し退院後の生活指導を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り介護」について説明とご意向の確認をしている。担当者会議や状態の変化が見られた際ご家族に話をしご意向を伺っています。状態が大きく変化したときには看護師や主治医、理学療法士、栄養士へ支援依頼をしチームでケアをしている。	開設時より10名の看取り介護を行っている。常に医師・看護師・理学療法士・職員・家族などで話し合い、最後まで安心した生活が送れるよう支援している。職員は介護の不安などの課題を振り返り、精神的なサポートをしている。家族からの意見も伺っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが訓練の実施は出ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の法定防災訓練の計画、実施している。エレベーターが使えない状態での移動訓練を行い危険な部分があり課題が残る。地域の防災訓練はコロナにより中止となった。	事業所内での防災訓練は火災・地震・風水訓練を行い、消防署の協力も得ている。夜間訓練を実施し、発電機の使用方法を職員全員で行っている。食糧は利用者は5日分、職員は3日分準備している。地域訓練への参加は中止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひと動作ごとに説明をし今から何をするのか理解していただいた上で介助しています。理解が難しい方については声かけだけではなく文面にて説明している。協力動作が見られないときには時間をおきケアをしています。	職員スローガン「利用者を主に」を大切に、利用者を尊重している。ドアの開閉に注意し、入浴は1対1の支援を心がけている。利用者の呼び方など、プライバシーを損ねることがないように職員同士で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は自由に表現していると思います。自己決定が難しい方についても声をかけ反応や表情を見て選択しています。時間に追われ職員が決定してしまうことも希にあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を確認しその日の体調や気分に合わせて活動内容を変更し参加していただけるように声をかけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時の衣類はご本人様に選んでいただいています。沢山の衣類から選ぶのが大変な方もいるため好みと思う服を2着出し、どちらが良いか選んでいただいています。整容については起床時や口腔ケア時などに鏡の前で行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなどは利用者様と行っています。毎週日曜日には利用者様と一緒にメニューを考えつくっています。咀嚼・嚥下機能が低下している方にも食事を楽しんでいただける様ソフト食を導入しました。	日曜日は利用者と共にメニューを考え調理をしており、好みはマグロ料理が第1位である。準備から片付けを声かけしながら行っている。箸とマグカップは利用者好みのものを使用している。コロナ禍により、職員は別に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量、食べ方、飲み方はその都度チェックし記録に残しています。普段との違いがあればすぐに看護師に報告しています。排便が滞ってしまう利用者様が増えてことで厨房職員が食事で出来ることを考え週に1度腸活メニューを作り提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導受けています。臥床時と離床時、毎食後のに口腔ケアを行っています。必要に応じて訪問歯科にて治療を受けています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と排泄パターンを把握し日中のオムツゼロを目指していましたが現在は臀部に傷のある方やトイレの理解が難しくトイレ誘導が出来ない方もおりオムツゼロ実現が難しくなっていました。	朝食、昼食、夕食前にはトイレ誘導を実施している。個々の排泄パターンを確認し、また水分量を考慮してトイレでの排泄を支援している。利用者の身体機能に応じて、紙パンツ・パットの検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳提供継続。週に1度の腸活メニュー提供を行っている。運動については理学療法士アセスメントによる機能訓練を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添って入浴出来るように午前と午後で入浴時間をもうけています。拒否のある方や体調不良により入浴日に入浴出来なかった方は翌日に変更しています。また、入浴したいと思ってもらえるような言葉かけを心がけ気持ちよく入っていただける様にしています。	週2回入浴をしている。「風邪をひいているので」「家に帰って入りたい」など拒否をする人には、午前午後また翌日入るように言葉かけや対応の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご高齢により長時間の座位が大変な方や疲れにより傾斜が見られる方は適時臥床時間を作っています。就寝時間はご本人様に合わせて就寝介助を行っています。また、浅眠気味の方には寝る前に足浴を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴・現病歴・服薬内容を一覧にいつでも確認出来るようにしています。状態の変化や薬の変更があったときは業務日誌・個人記録に記載し変更により変化が見られないか記録をし状態把握をし看護師より医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理学療法士と連携しその方が今できることを日課とし実行してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出予定のあった方もご家族から落ち着いたらにするとキャンセルが出ており行えない。現在は落ち着いたらこんなことをしたいねと広告などを見て話をしています。	以前は近隣のスーパーマーケットや人気のパン屋さんへ行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染予防のため自粛している。外気浴は事業所前のテラスで毎日行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の駄菓子屋やスーパーにて自分で選び、計算して買い物をされる方もいましたが現在はコロナにより買い物に行くことが難しく行えていない。希望の物についてはご家族に相談したり職員が買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは利用者様に書いていただいている。電話についてはご要望があればおかけしご家族様の都合も聞きながら代わる等の対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがまぶしく感じる方や暖かい室内から外を見たいと言われる方などがいるためその方に合った場所に誘導するため意見を聞いています。季節にあった壁画を利用者様と作り展示するようにしています。	事業所の行事などの壁画、得意な職員のバルーンアート、利用者の書道の作品などを掲示している。共有空間(コミュニティーゾーン)は常に清掃に気を使い清潔にしている。ソファやテーブルの位置を変えながら、光や室温などのストレスに注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置はその日のご利用者様の気分に合わせその都度変更しています。TVを見る方やパズル等の脳トレを楽しみたい方などその日の気分にあった環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具をお持ちいただける様に声をかけています。パット類はむき出しにならないようにタオル等をかけています。	居室は和室と洋間があり選んで頂いている。テレビや家族の写真、事業所の行事での思い出の品物、天皇陛下の写真などを大事にして、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からなくなってしまう方に分かり易いようにビニールテープを貼り道順の説明をしています。また、張り紙をつけ理解し易いよう工夫しています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ (2階)		
所在地	静岡県焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 25日	評価結果市町村受理日	令和 3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和 3年 2月 9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたがそう願うなら、私たちは絶対にあきらめない」法人理念のもと他職種連携に力を入れています。日々の生活の中で個別のプログラムに取り組み出来ない事を無理に続けるのではなく出来る事が継続出来るように理学療法士に助言・指導をいただきながら実行しています。毎月の訪問診療時には薬剤師に同席してもらいその方にあった飲み方などの指導もいただいています。また、利用者様が混乱することなく安心して安全に生活出来るようにケアの統一にむけ管理職が研修に参加し職員教育を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「あきらめない」をもとに、他職種連携に力を入れています。訪問診療時には提携薬局の薬剤師にも入っていただきその方にあった薬が処方されているか毎月指導をいただいています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月に地域の文化祭には利用者様と数名と参加しました。そのほかは感染症対策のため職員のみ参加としています。施設行事も対策のため、利用者様と職員のみで行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して地域のかたに興味を持って頂けるよう計画していたがコロナにより1度のみ開催となってしまった。今後、職員の理解を深め地域の方へ発信していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症蔓延により1月に1回のみ開催となっています。延期、中止の時には行事報告を書面で送付しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点などその都度相談にのっていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックによる精神的苦痛をゼロにするため職員全員で話し合いを行い実施しています。身体的拘束についても自己点検チェックを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員で定期的に話し合いを行い3ヶ月に1回職員研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援や後見制度について研修に参加する機会が持てた。今後、職員に研修会を開けるように検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の契約の際に利用契約書・重要事項説明書の読み上げ説明し不明点についても納得していただけるまで説明し同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症により家族会の開催は出来ていません。ご家族面会時にはご様子をお伝えするとともにご家族のご意向等を伺っています。ご利用者様からは日々の生活の中でお話を伺うことが出来て居ます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2度の面接を行い体調面、業務、人間関係について話を聞いています。また、日々の業務の中で声をかけ変化に早期に気づけるように心がけ管理職で共有しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアの統一にむけ管理職がアセッサーの勉強をしている。業務内容や記録用紙の見直しを職員と一緒にいき不都合があればその都度変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に出ることが難しく実施出来ていません。管理職がアセッサー研修に参加しケアの統一に向け勉強中し業務の中でその都度職員へ指導しています。今後、全体での研修を行う予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症により他事業所との交流ができていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者さま・ご家族様のご意見ご要望をしっかりと聞き、無理強いはずゆっくとホームの生活に慣れていただける様に支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当時はご家族様・利用者様の不安も大きいのでしっかりと話を聞きしています。コロナにより面会制限があり直接会うことは難しいが電話にて話をいただいています。職員からも利用者様のご様子をご家族にお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせをいただいた時に同法人の小規模複合型・デイサービスについてもご案内させていただきその方に合ったサービスが提供出来るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動とうを職員とご利用者様で協力して行っています。利用者様にとっても日課となり「これやってもいい」と声をかけて下さり率先してお手伝いしてくれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	爪切り・散髪・居室の片付け等を面会時に行って下さるご家族もいらっしゃいますが、今は感染症対策のため長時間の面会はお遠慮いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症蔓延により外出は自粛をお願いしています。関係性を忘れないようにと写真や絵手紙等を持参して下さるご家族さまもいらっしゃいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活パターンの違いにより衝突していません但也有りますが席順に配慮したり職員が間に入るようにしています。利用者様同士でお互いを気遣い助け合っている姿も見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあと、近くに来たと寄って頂いていたが職員の入れ替わりなどで【知らない職員さんばかりになってしまった】と足が向かなくなってしまうている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を尊重しながら、その方にあったサービスが提供出来るように全職員でアセスメントを行い情報を収集し共有している。ご家族様からも生活歴等の情報を頂けるように声かけをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より今までの生活歴の聞き取りを行っています。ご本人様からも日々の生活の中で話を伺う機会がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を個人記録に細かく記載し申し送りの中で全職員が共有出来るようにしている。ユニット会議や全体会議でも情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当者がついており、毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1回アセスメントをしています。毎月のユニット会議では3名の利用者様について時間をかけ協議しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を変更し事細かに記載できるようにしました。その都度関わった職員が記入することで伝達間違いや聞いた聞いてない等のトラブル減少する事を目的としています。R3.1月変更により様式になれておらず記入漏れがあるため課題が残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化により居室や食事席の変更をフローア職員と話し合いをし安全に生活していただける様にしている。必要があれば理学療法士にも助言をもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練や地域の祭りはコロナにより中止となった。文化祭については開催されたため数名の方と参加しました。作品は利用者様と職員で協力して完成させ提出する事が出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	18名の利用者様がホームの協力医に訪問診療を受けています。毎月ご様子をまとめた用紙を提出し協力医へ情報提供している。体調不良時にはすぐに相談し適切な対応が来ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・介護職員で情報を共有し意見交換を行っています。担当看護師が週に3回は出勤しているため医療面の指示や助言をもらっている。看取りケアについても看護師とよく話し合い実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には地域連携室に状態確認の連絡をしています。退院時には退院カンファレンスに参加し退院後の生活指導を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り介護」について説明とご意向の確認をしている。担当者会議や状態の変化が見られた際ご家族に話をしご意向を伺っています。状態が大きく変化したときには看護師や主治医、理学療法士、栄養士へ支援依頼をしチームでケアをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが訓練の実施は出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の法定防災訓練の計画、実施している。エレベーターが使えない状態での移動訓練を行い危険な部分があり課題が残る。地域の防災訓練はコロナにより中止となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひと動作ごとに説明をし今から何をするのか理解していただいた上で介助しています。理解が難し方については声かけだけではなく文面にて説明している。協力動作が見られないときには時間をおきケアをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は自由に表現していると思います。自己決定が難しい方についても声をかけ反応や表情を見て選択しています。時間に追われ職員が決定してしまうことも希にあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を確認しその日の体調や気分に合わせて活動内容を変更し参加していただけるように声をかけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時の衣類はご本人様に選んでいただいています。沢山の衣類から選ぶのが大変な方もいるため好みと思う服を2着出し、どちらが良いか選んでいただいています。整容については起床時や口腔ケア時などに鏡の前で行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなどは利用者様と行っています。毎週日曜日には利用者様と一緒にメニューを考えつくっています。咀嚼・嚥下機能が低下している方にも食事を楽しんでいただける様ソフト食を導入しました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量、食べ方、飲み方はその都度チェックし記録に残しています。普段との違いがあればすぐに看護師に報告しています。排便が滞ってしまう利用者様が増えてことで厨房職員が食事で出来ることを考え週に1度腸活メニューを作り提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導受けています。臥床時と離床時、毎食後のに口腔ケアを行っています。必要に応じて訪問歯科にて治療を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導と排泄パターンを把握し日中のオムツゼロを目指していましたが現在は臀部に傷のある方やトイレの理解が難しくトイレ誘導が出来ない方もおりオムツゼロ実現が難しくなりました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳提供継続。週に1度の腸活メニュー提供を行っている。運動については理学療法士アセスメントによる機能訓練を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添って入浴出来るように午前と午後で入浴時間をもうけています。拒否のある方や体調不良により入浴日に入浴出来なかった方は翌日に変更しています。また、入浴したいと思ってもらえるような言葉かけを心がけ気持ちよく入っていただける様にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご高齢により長時間の座位が大変な方や疲れにより傾斜が見られる方は適時臥床時間を作っています。就寝時間はご本人様に合わせて就寝介助を行っています。また、浅眠気味の方には寝る前に足浴を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴・現病歴・服薬内容を一覧にいつでも確認出来るようにしています。状態の変化や薬の変更があったときは業務日誌・個人記録に記載し変更により変化が見られないか記録をし状態把握をし看護師より医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理学療法士と連携しその方が今できることを日課とし実行してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出予定のあった方もご家族から落ち着いたらにするとキャンセルが出ており行えていない。現在は落ち着いたらこんなことをしたいねと広告などを見て話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の駄菓子屋やスーパーにて自分で選び、計算して買い物をする方もいましたが現在はコロナにより買い物に行くことが難しく行えていない。希望の物についてはご家族に相談したり職員が買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは利用者様に書いていただいている。電話についてはご要望があればおかけしご家族様の都合も聞きながら代わる等の対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがまぶしく感じる方や暖かい室内から外を見たいと言われる方などがいるためその方に合った場所に誘導するため意見を聞いています。季節にあった壁画を利用者様と作り展示するようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置はその日のご利用者様の気分に合わせその都度変更しています。TVを見る方やパズル等の脳トレを楽しみたい方などその日の気分にあつた環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具をお持ちいただける様に声をかけています。パット類はむき出しにならないようにタオル等をかけています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からなくなってしまう方に分かり易いようにビニールテープを貼り道順の説明をしています。また、張り紙をつけ理解し易いよう工夫しています。		